

額田の城下町

額田城跡保存会 会報部会

～目次～

額田小学校150周年に思う	1P
額田の歴史に思いを馳せて／額田城跡と私	2P
ありがたいけのコウホネ／試掘確認調査始まる	3P
ボランティア・管理作業日程／令和4年度決算状況	4P



額田小学校一五〇周年に思う

榎原 一和

明治五年の学制発布は、全国に初等教育をまたたく間に広げた。額田小学校も、明治六年に、毘盧遮那寺を持って産声を上げた。そこから一五〇年。ご縁があり、PTA会長時に一五〇周年事業の企画を椎名公教氏と立ち上げた。当時、長女が五年生。十一年の時の流れは早い。目もかすむし、疲れが抜けない。

現在、仲間たちと、十月の記念事業に向け、論議を重ねている。今までにない何かを求め、試行錯誤の最中だ。同時、記念誌編さんの資料を収集している。地元の皆様のご協力の下、額田小にまつわるものから、額田の近代史(明治以後)を伝える資料まで、多数お寄せ頂いている。感慨無量だ。

この場を借り、面白いエピソードを一つご紹介する。第三代額田小学校長(明治八年)の野口勝一という人物だ。彼は、有名な詩人、野口雨情の叔父であり、後に茨城日日新聞社長、県議会議員、国会議員を務めた。明治十三年、久慈川に額田、上河合両村の共同で橋を架けた。橋名を両村で争い、問題は非常にこじれた。当時の県知事まで持ち込まれた。

この時、知事にアドバイスをし、問題解決を導いたのがこの野口であった。

久慈川はさきくあ里まで汐舟にまかぢしじぬき和は帰里古舞々、万葉集防人の歌である。この歌から、幸久さきく橋の命名を促した。額田小学校の児童数は年々減少の一途だ。地区の人口も二十年で20%以上も減少している。少子高齢の典型だ。また、先のコロナ渦の中、未来の見えない世中が今日と言える。

しかし、額田はどうだろうか。小学校一五〇年の歴史を踏まえ、世代を超えた結束が、額田の大きな財産だ。故郷の発展は、誰もが望む。私たち、同世代の仲間は、若年からあらゆる行動を共にし、賑わいを創出してきた。

将来に向け、次世代に繋ぐ額田を創るべく、地域がワンチームとなつて、頑張る背中を見せたい。そう思う、今日この頃である。



防人の歌碑

「額田の歴史」思いを馳せて・・・」

武藤 まさ江

豪華な山車が何台も練り歩く額田まつり、千年以上の歴史ある長い参道を有する額田神社、鎌倉時代から安土桃山時代に繁栄した額田城跡、いくつもの由緒ある寺院、創立一五〇周年を迎えた額田小学校など、近隣の地区にはない長い歴史と素晴らしい文化が存在する額田の地に嫁いで四〇数年、この額田が私は大好きです。みんなで歴史を守り、昔からの伝統や文化を大切にする地域には、心豊かな子供たちが育つと言われています。時代とともに少しずつ地域のあり方が変化してきて、地域挙げての盛大な市民運動会などがなくなり、残念なこともありましたが、多くの先人たちが作り上げ、育ててきた額田の歴史と文化をこれからどのようにしたら守っていけるのかなと、時々思っています。もう少し若い世代が、額田に残って生活を営んでくれるように、私たちの世代も努力をし、頑張る必要があるのではないかとも思っています。

ます。義父より話を聞かされていたことですが、戦国時代（天正五年三月二十九日）、大蛇斬り伝説（蛇斬り丸として伝承）で名を残した先祖の武藤彦次郎佐渡守義次がここで仕えていたことでさらに額田城跡を身近に感じ、当時のことに思いを馳せて歩いています。

中世の名残をとどめている城跡をここまで整備していただいた関係者の皆さんには、心より感謝申し上げます。地域の絆が少しずつ薄れてきている昨今ですが、皆で知恵を出し合い、協力し合って、この素晴らしい額田の歴史と伝統、文化を守っていけたらと思っています。



「額田城跡と私」

花島 進

私は、額田に来る前には東海村の勤務先の職員住宅に住んでいました。自分の家を持つと思ったとき、ひたちなか市の足崎に宅地を購入してあったのですが、周辺に緑が多い環境を求めて額田の森戸に家を建てました。一九九五年のことです。排水を流す先もないところでしたが、高性能な合併浄化槽を遠くから取

り寄せて設置し、処理水の一部を再利用し、残りは宅地内で浸透処理させています。住み始めてから少しして、屋根の雨水も浄化槽の処理水とは別に、井戸のようなものを掘って浸透させるようになりました。都会的な生活を好む人は多いと思いますが、子供のころに育った場所が、時には庭先に虫が来るようなところで、私に都会願望はありません。

額田地区は、昔大いに栄えた場所で、額田城があったことを、住み着いてから知りました。額田城には少し興味があつたところ、市議員になってから額田城址保存会に誘われ会員になりました。実際に城跡に行ってみると、建物は何も残っていないのですが、深く大きな堀や全体の構えの規模は想像以上でした。保存会の作業には、時折、自分の道具をもって参加しています。第二土曜日の作業ですが、近年土曜日に用事が入ることが多くなり、年に数回しか参加できていないのが少し残念です。

今那珂市では、土地の一部を市の所有にし、額田城跡の学術調査を進めようとしています。調査によって、額田城の昔を明らかにしてもらい、憩いの場、あるいは観光の場として整備したいものです。また額田地区には、江戸時代に紅花で栄えた鈴木家の住宅が県の文化財としてありますが、その修復・整備の機運もできつつあります。これも期待しています。

ありがたいの Cowhane

小田部 一彦

古く有が池は昭和18年まで額田城跡の南側に存在した、1591年に額田城は落城、築城が1249年だから、340年も続いたのである。そののちも有が池は存在し、その当時から、有が池には河骨 Cowhane は群生していたと考える。

昭和18年に有が池の干拓により水田に変わった。水田の用水路に Cowhane の種がこぼれ、100メートルにわたり毎年、7月になると可憐な花をつけた。

筆者がそれを確認したのは2006年7月のことである。そのことを額田歴史の散歩道で有が池の Cowhane として紹介した。

その記事からNHKが翌年だと思いが Cowhane をテーマに取材に来て映像で流された。

その当時は可憐な小さな花を咲かせていた。そこに蓮の花の原種と



Cowhane (河骨) は絶滅危惧 II 類に指定されている

もいえる函館河骨、日光河骨と並ぶ河骨が存在していたのである。その確認が話題になり、2007年に額田城跡保存会が Cowhane の重要性を認識し、城跡のすぐそばの

小さな水田に Cowhane を何本か移して栽培してきた。武藤会長の前の原会長の時代である。

今から5年前になろうか。用水路がコンクリートになり、用水路の群生はなくなってしまった。誠に残念でならない。日本で有名な根室 Cowhane が温暖化に伴い氷河が解け、育成湿地に海水が入り、絶滅したという。代替え地をつくらなかった結果である。後悔先に立たずである。幸いにして、額田城跡の Cowhane は今年も花をつけている。有が池の水田にである。代替え地を作ったことにより絶滅は免れた。

Cowhane は1億4千年の前に存在した白亜紀の原種である。日本という国が形成されない前の植物である。古くはアイヌではあくを抜き食用にしたり、薬とした。Cowhane のことをカバネと呼んだ。そして日本の家紋の中に三つ葉 Cowhane という家紋がある。古くは生け花の花材として蓮の原種として生け方も残っている。多くの流派も Cowhane

の生け方がある。古来からの伝統的なのである。

額田城跡の植物198種あると菅谷の生物学者の久下沼光始先生に教えられた。その中の代表的花ウバ百合は他市では天然記念物である。

茨城県の茨の起原になった野茨もある。常陸風土記にはうばらとして記されている。安易に刈り取ったり、抜いたりして種の保全を図らなかつたら後で後悔しても遅い。城跡や神社仏閣は有形であり、目を奪われるが自然界の地方の財にも目を向けてほしい。これは行政にも言えることである。Cowhane は1億4千年前の財なのだから、額田住民として最も守りたい財である。

試掘確認調査始まる

額田城跡保存会

会長 武藤 博光

今年度より那珂市指定文化財史跡第2号であり県下でも有数の規模を誇る額田城跡の地形測量調査と試掘確認調査が始まります。

その目的として本丸における遺構の有無の確認及び額田城の性格・概要を把握し建物・施設の規模と位置、築城の変遷などを確認し今後の整備方法検討の基礎資料と致します。

地形測量調査では本丸跡(堀跡、下堀、土塁跡を含む50・153m)、および二の丸跡(堀跡、土塁跡を含む26・553m)、試掘確認調査では本丸跡(郭内平坦部16・543mのうち600mが対象になります)。

調査方法としては、地形測量調査は20cm間隔の等高線図と共に、城跡の状況をより分かりやすくするための傾斜変換線も用いて、デジタル測量による3D地形測量図を作成し、調査地点および遺構発見時の正確な位置を記録するため、基準杭およびグリッド杭を打設するものです。

試掘確認調査では、地形測量図および平成12年度に実施した調査報告を基に、調査指導委員会の指導のもとにトレンチを設定します。トレンチ幅は2メートルを確保し、遺構の有無や範囲・性格・内容と遺構・遺物の密度、遺構面の数と深さなどの状況を手掘りで行い確認するものです。

なお調査指導委員会は年度ごとに報告書を作成し、別途、城跡内の植生および文献資料の調査も行います。

その後、地元住民の理解を得るために、試掘確認調査の状況により報告会を開催することになっています。

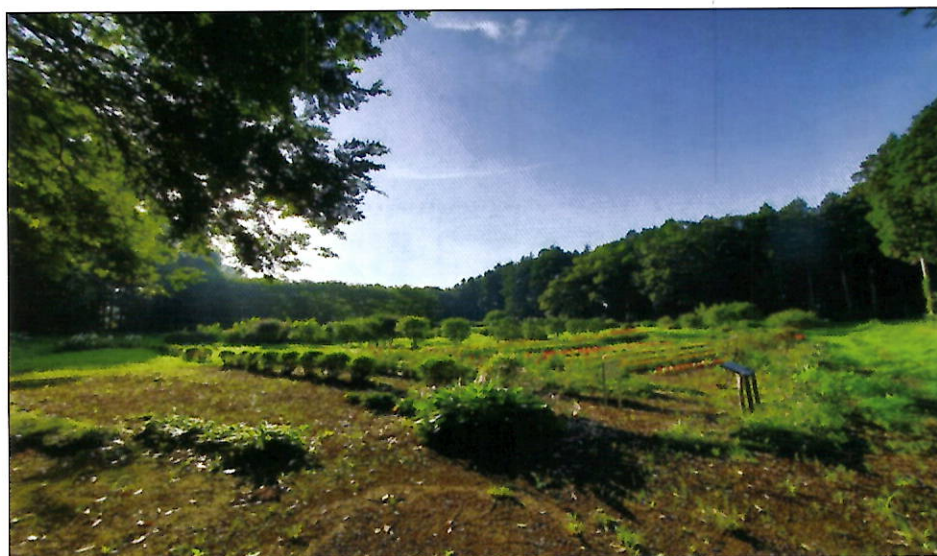
調査は令和8年度まで予定されており、今年度の予算として1,713万円が計上されています。

【令和5年度 ボランティア日程】

8月19日 9月16日 10月21日 11月18日 12月16日 2月17日 3月16日

【令和5年度 管理作業日程】

7月29日 8月26日 9月2日 10月7日 11月11日 12月2日 3月2日



令和4年度額田城跡保存会 決算状況をお知らせします。

収入の部

項目	予算額 (円)	決算額 (円)	差引増減(円)	摘要
前年度繰越金	27,542	27,542	0	
年会費	60,000	66,000	6,000	66戸×1,000円
賛助会費	46,000	46,000	0	46戸×1,000円
雑収入	0	16,300	16,300	
合計	133,542	155,842	22,300	

支出の部

項目	予算額 (円)	決算額 (円)	差引増減 (円)	摘要
会議費	5,000	1,274	△3,726	
事業費	120,000	112,894	△7,106	奉仕作業、機材整備、整備 振興、会報紙発行等
事務費	6,000	5,570	430	消耗品、切手等
予備日	2,542	0	2,542	
合計	133,542	119,738	13,804	

(収入合計) 155,842円 — (支出合計) 119,738円 = (差引残高) 36,104円

差引残高の36,104円は、令和5に繰り越します。

編集後記

日頃より皆様にはお世話になっております。この度、寄稿して頂いた方の額田に対する思いがよく感じれたと思います（ありがとうございました）。我々額田城跡保存会は、日々城跡の美観に取り組んでおりますが、今の時期、メンバーの高齢化もあり草刈りがたいへんです。近年では常陸太田、日立、常陸大宮、菅谷の方々にも協力をへて清掃作業にあたってもらっています。地元額田住民メンバーが少ないことが残念です。当保存会は皆様の年会費で成り立っておりますので今後とも支援のほどよろしくお願い致します。

額田城跡保存会 副会長 関、編集 富永